

私とロータリー

寄稿

ロータリークラブに永く在席された人たちはよく、ロータリーは素晴らしい団体と称賛される。本当にそうだろうか。

私も、入会して既に22年になる。その間、幾度となくクラブを退会したい、やめたいと思った。にもかかわらず、既に会長職も務め、今では古参会員の部類。

後年になって知りえたことで恐縮だが、私の幼少時代のこと、プロ野球

犬山ロータリークラブ

安田 宗平



界に秀でた選手の一人 ている。

に山本一人選手がいた。

後に改姓して鶴岡とな

り、監督としても再々優

勝を導かれた。同氏は

「私は好きな野球を幾度

となくやめたいと思っ

た、だから野球が続けら

との相違、会員間の派閥 からです。「真実、公平、

あるいは公平差に欠けた 好意と友情、みんなの為

りしていること等が要因 に」の4原則を信条とし、

で退会者が出ることは否 人格を向上させる場をも

私も、クラブの ち、目標の手段として会

目標とする本質を忘れ、 員相互の親睦(しんぼく)

単に身勝手にやめたいと が密であり、もって全世

した事に今では恥じてや 界社会における人々の生

やめたい、やめられない

れた」と、たぶんこの様

(かっとう)を経験する。まない。が、鶴岡一人氏す。

ロータリー・ライオンの 遺訓を援用すれば、有 年齢層もあり異なった

ズ・青年会議所の部類の って良し、とするか、と 事業者が集い、会員一人

任意団体に限定して言え 苦笑もする。

では、どうしてロータ 思方考するロータリーク

時間また経済的な理由の リークラブをやめられな ラブ、これからもクラブ

ケースは別として、入会 かったか。結論から言え の一員であり続けたい。

はしたものの、己の理想 ば「素晴らしい団体」だ

活に貢献す

る奉仕活動

がロータリ

ーだからで